

「国内外旅行者のためのわかりやすい案内サイン標準化指針」(東京都版ガイドライン)の策定状況について

改定のポイント

○ 対象施設の拡大

- 平成20年に策定した「歩行者編」、「鉄道編」の改定に加え、多くの外国人旅行者が利用する美術館・博物館・観光地や宿泊施設・飲食店等を対象とした「**観光施設・宿泊施設・飲食店編**」を新たに作成

○ 多言語対応の強化

- 観光庁策定の「観光立国実現に向けた多言語対応の改善・強化のためのガイドライン」(平成26年3月)等を踏まえ、**翻訳ルール(英・中・韓)を整理するとともに、東京都版対訳表(日・英・中(簡・繁)・韓)を作成**

○ ピクトグラム等の有効活用

- 外国人ニーズの高い施設に関するピクトグラムを作成し、地図や案内サインに表示(コンビニ、海外カード対応ATM)
- 飲食店における分かりやすさ向上のため、店頭表示用マークを作成(多言語メニューあり、メニューへの使用食材表示あり)

○ 新たな取組事例の掲載

- 類似する案内サインの整理・統合、広告を掲載した観光案内サイン、デジタルサイネージの活用など



観光地における案内サインの例(日・英・中・韓)



多言語メニューの例(英)



デジタルサイネージの例

各編の主な内容(案)

【歩行者編】

(観光案内サイン)

- 地図面は日・英2言語、凡例は4言語(日・英・中・韓)を基本
- 行動の起点である駅出入口やバスターミナル等へ重点的に整備



(誘導サイン)

- 日・英2言語を基本



(その他)

- 適切な更新・管理の推進
(点検・更新の目安や好事例を掲載)

【鉄道等編】

- 外国人旅行者の利用が多い駅等の主要な施設・設備(出口、改札口、券売機、案内所等)は4言語表記(日・英・中・韓)が望ましい。
- 分かりやすさの工夫
(路線マークや駅ナンバリングの活用、連続的なサイン設置等)
- 異常時・非常時における英語による車内放送・車内表示の作成例を掲載



【観光施設・宿泊施設・飲食店編】

(美術館・博物館・観光地等)

- 入場案内・施設案内の多言語化
- 多様な媒体による展示内容の解説

(宿泊施設)

- 施設内の設備及び周辺施設の情報や観光地へのアクセス等の多言語による案内の充実

(飲食店)

- 店頭への多言語メニューや写真の掲出
- 写真付多言語メニューの準備。料理概要や使用食材の表示

